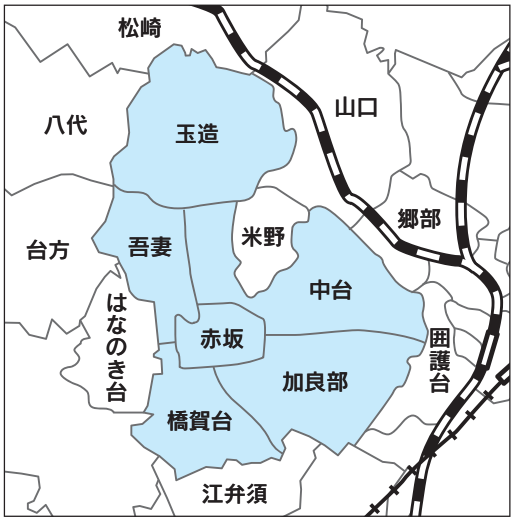
ふるさとの歩み 第12回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史―大字別地域の事典―」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布（価格＝2,500円）しています。
※「成田の地名と歴史―大字別地域の事典―」についてくわしくは市立図書館（☎27-4646）へ。

成田ニュータウン　空港の建設とともに発展した住宅街



多くの建築物が整然と建ち並ぶ成田ニュータウン（平成20年）

新たなまちづくり

昭和41（1966）年7月、新東京国際空港の設置が決定されると、地域開発の柱の一つとして、空港と空港関連企業の従業員や市外から転入する人のための居住地区として成田ニュータウン建設が計画されました。対象は、松崎・八代・船形・山口・台方・江弁須・米野・郷部・囲護台の9区域487ヘクタール。計画人口6万人で住宅数は1万6,000戸。地区センターを中心とした8住区に、小中学校・医療施設・ショッピングセンターなどが配置される近代的なまちづくりを目指したものでした。造成工事は、昭和44（1969）年から開始。区域内にある八代玉作遺跡や船塚古墳など多くの遺跡は保存され、現在も緑地や公園としてその姿を留めています。昭和46（1971）年、県の告示により赤坂・中台・加良部・橋賀台・吾妻・玉造の新大字が誕生し、同年中台地区の国家公務員住宅への入居が始まりました。

生活基盤の充実と地域の発展

昭和50（1975）年の国勢調査では、人口は6,794人で、平成2（1990）年には3万4,664人となり、15年間で5倍に増加。これは、当時の市の総人口の約40パーセントに当たります。昭和56（1981）年12月にはニュータウン中央線が完成し、翌年3月に成田ニュータウンと国道51号が結ばれました。昭和61（1986）年3月にはJR成田駅西口広場が完成し、成田ニュータウンと市街地が直結し交通の不便さが解消されました。昭和54（1979）年には、地域の交流・環境整備促進を目的に成田ニュータウン連合自治会が結成され、翌年「成田ニュータウン秋祭り」を開催。この催しは、平成4（1992）年に「成田ふるさとまつり」と改名され、現在も成田ニュータウンの夏の風物詩として、多くの人に親しまれています。

昭和42（1967）年の造成前の成田ニュータウン。右下は当時の西中学校、上は印旛沼（「図説成田の歴史」から）

成田ニュータウンの夏をにぎわす「成田ふるさとまつり」

編集後記

環境美化運動（ゴミゼロ運動）が、5月27日㈰を中心に県下一斉に行われます。わが家の前の道路沿いにも、いろいろなものがポイ捨てされています。たばこの吸い殻、空き缶、弁当の殻やお菓子の袋などが、植え込みの中のような目に付きにくいところにまで。環境問題に対する関心の高まりに反して、ポイ捨ては後を絶ちません。「ポイ捨てをしない」が社会のルールとして定着するのはいつの日のことでしょうか。

平成24年5月15日号 No.1219

成田市のホームページ　http://www.city.narita.chiba.jp

平成24年5月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課
〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111（大代表）

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。